

令和6年度 事業報告

自 令和6年4月1日

至 令和7年3月31日

一般財団法人 MOA健康科学センター

I 法人の概況

1. 役員に関する事項

役員一覧

(令和7年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
理事長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
専務理事	利見 晃二	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
常務理事	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
理 事	渡瀬 信之	東海大学 名誉教授
〃	陽 捷行	北里大学 名誉教授
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長
〃	佐久間哲也	医療法人財団玉川会 理事
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長
〃	豊田 益代	一般社団法人MOAインターナショナル 管理栄養士
業務執行理事	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
監 事	石原 義之	東方之光 理事
〃	戸石 久実	株式会社MOA商事 財務部長

計15名(理事／13名 監事／2名)

2. 評議員に関する事項

評議員一覧

(令和7年3月31日現在)

氏名	勤務先／役職
長南 征二	東北大学 名誉教授
蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
横山 茂弘	東方之光 理事
水野 昌司	公益財団法人農業・環境・健康研究所 常務理事
小菅 豊弘	株式会社エム・オ一・エー商事 取締役
大門 一樹	東方之光国際委員会 事務局長
笹岡 勝利	東方之光人事委員会人事部 次長

計8名

3. 顧問に関する事項

顧 問 一 覧

(令和7年3月31日現在)

役職名	氏 名	職 業 等
顧 問	チャクリット・プーミサワット	元タイ国衛生省事務次官室監査委員会 監査官
同	牧 美輝	医療法人財団光輪会 理事長

計2名

4. 事務局員に関する事項

事務局員一覧

(令和7年3月31日現在)

事務局長	利見 晃二
事務局次長	泉谷 明宏
事務局次長	柴田 和廣

計3名

5. 研究スタッフに関する事項

研究スタッフ一覧

(令和7年3月31日現在)

研究部部长	片村 宏 (医師、医学博士)
研究部次長 主任研究員	木村 友昭 (博士 (医学))
〃	内田 誠也 (博士 (工学))
研究部課長 研究員	加藤孝太郎 (博士 (農学))
研究部課長 研究員	田中 英明 (博士 (公衆衛生学))
客員研究員	津田 康民 (博士 (理学))
〃	深澤 大輔 (あん摩マッサージ指圧師)
〃	富嶋 謙之 (准看護師、公認心理師)

計8名

6. 研究推進委員会および治験審査委員会に関する事項

令和6年度委員一覧

(令和7年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
委員長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
副委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
委員	長南 征二	東北大学 名誉教授
〃	木嶋 利男	伝統農法文化研究所 代表
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	森岡 尚夫	医療法人財団玉川会 理事
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
〃	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	田渕 浩康	公益財団法人農業・環境・健康研究所 業務執行理事
〃	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長

計15名

7. 編集委員会に関する事項

令和6年度委員一覧

(令和7年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
相談役	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
委員	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	利見 晃二	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	泉谷 明宏	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局次長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長

計8名

8. 倫理審査委員会（利益相反管理委員会兼任）に関する事項

令和6年度委員一覧

（令和7年3月31日現在）

役職	氏名	勤務先／役職
		（医学・医療の専門家、自然科学の有識者）
委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長（医学博士、医師）
副委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（医学））
委員	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事（医師）
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長（看護師）
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 理事（博士（工学））
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（農学））
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（公衆衛生学））
		（倫理学・法律学の専門家、人文・社会科学の有識者）
副委員長	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長（弁護士）
委員	佐田 喜朗	國學院大學大学院文学研究科（日本宗教学会会員）
〃	西 一嘉	翻訳家（博士（社会学））
〃	宮島 晶子	東方之光教学祭事プロジェクト事務局
		（一般の立場）
委員	豊田 益代	管理栄養士
〃	田中千枝子	カウンセラー
〃	三井 淳子	一般（修士（工学））
〃	坂口 弘征	医療法人財団玉川会 事務長
〃	泉谷 明宏	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局次長

計16名

9. 理事会に関する事項

開催日	主な審議事項
令和6年6月1日 定例理事会	令和5年度事業報告案承認に関する件、令和5年度決算報告案承認に関する件、令和6年度補正予算承認に関する件、定時評議員会招集及び提出議案に関する件、その他
令和7年3月8日 定例理事会	令和7年度事業計画案承認に関する件、令和7年度予算案承認に関する件、令和7年度顧問・委員・客員研究員の委嘱に関する件、その他

10. 評議員会に関する事項

開催日	主な審議事項
令和6年6月29日 定時評議員会	令和5年度事業報告の内容報告の件、令和5年度計算書類等の承認に関する件、令和6年度事業計画及び予算の件、理事・監事任期満了に伴う理事・監事選任に関する件、評議員任期満了に伴う評議員選任に関する件

Ⅱ 事業の概要

1. 総括

現代社会では、感染症をはじめ、生活習慣病や精神疾患の増加、社会的孤立、震災や災害による心身のストレスなど、さまざまな健康課題が顕在化しており、西洋医学の治療中心では対処が難しくなっている。令和6年度の厚生労働白書では、国民一人ひとりの健康への取組みの基盤として、心の健康を損なうストレス要因に着目した対策や支援の必要性が示された。

こうした課題に対し、全人的な視点で一人ひとりを大切にしたい疾病の治療とケアを目的とした統合医療における「医療モデル」と、患者の健康を地域コミュニティや社会全体で支えていくことを目的とした「社会モデル」、これらを併せ持つ統合医療を充実させることが重要であると考ええる。さらには、少子高齢化が進行する中で、地域医療や介護との連携の重要性が認識されてきているが、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながる地域共生社会の取り組みも進展している。

令和6年度は、人間に備わる自然治癒力を生かす医学および健康法を利用して健康寿命の延伸を目指し、協力機関・団体と連携して、調査研究活動および情報提供を進め、「心身ともに健康なまちづくり」に向けて、家庭や地域社会における健康づくりの推進に取り組んできた。

具体的には、全人的医療や統合医療として行われている心身の健康法、特に岡田式浄化療法をはじめとする岡田式健康法について、(一社)MOAインターナショナルや(公益)農業環境健康研究所などをはじめ、各医療機関と協力して調査研究に取り組んだ。

海外では、タイ国文部省学修支援局およびタイ国衛生省伝統医療・代替医療局と協力協定の締結に至り、共同研究に向けた連携が始まった。国内では、第28回日本統合医療学会学術大会において、統合医療の社会モデルをテーマとしたシンポジウムで東京療院の取り組みについて発表を行い、さらに岡田式浄化療法のワークショップおよび学会発表によって、岡田式健康法を含む各種健康法の研究成果を発表した。その他にも、地域社会において健康科学セミナーを実施し、統合医療および農医連携に関する研究成果や健康づくり関連の情報を広く発信してきた。

これらの事業を通して、地域に根ざした健康づくり活動の普及啓発および国民の健康づくり運動「健康日本21」(第三次)の推進に貢献することができた。以下、令和6年度の事業計画に基づき実施した事業活動の概要を報告する。

2. 調査研究事業の充実

MOAインターナショナル、医療法人財団玉川会など全国の医療法人財団及び地方行政・団体と連携し、岡田式健康法（浄化療法・食事法・美術文化法）をはじめとした統合医療の医療モデルや社会モデルに係る調査研究を実施した。

（1）調査研究の実施について（詳細について別紙付録① pp. 1-2 参照）

「一般社団法人脳と心の健康科学研究所」理事長の酒谷薫先生と当財団との共同研究である「AIを用いた健診データによるフレイル・認知症リスク評価と予防に関する研究」が開始し、岡田式健康法の実践と認知症のリスクとの関連についての調査研究を進めた。その他にも、東京療院をはじめ奥熱海療院および名古屋療院と共同で実施している岡田式健康法のライフスタイルと心と体のストレスとの関連についての調査研究や、介護福祉共生型のサービスの満足度に関する調査研究など多くの研究に取り組んだ。統合医療の医療モデル（9件）、社会モデル（1件）、農医連携の研究（4件）、スピリチュアルなケアに関する研究（1件）、共生社会の研究（2件）、統合医療の効果を評価するための研究（1件）を実施した。そして学会発表（8件）及び論文発表（2件）などを通して研究成果の公表に努めた。

（2）学会発表および論文などの投稿

① 学術誌への論文投稿はなかった

② 編集委員会による研究報告集の第28巻の作成と発刊（詳細は別紙付録② p. 3 参照）

編集委員会を2回開催し、研究報告集第28巻を令和7年2月3日に発刊した。本巻の掲載論文は7報（「原著」1報、「総説」1報、「研究報告」1報、「資料」2報、「レター」1報、「転載」1報）であった。総説については英文論文“Okada health and wellness program, a whole-person health program with diet, art, and biofield therapy, to support integrative medicine in Japan”と題した論文へ修正を加えて報告書としてまとめたものである。

③ 学会発表（詳細は別紙付録③ p. 4 参照）

本年度は、国際伝統代替医療学術会議において、鈴木理事長が日本における統合医療の特徴とMOAの活動について講演を行った。国内では、日本統合医療学会をはじめとする各種学術学会において、当財団の関係者が10件の発表を行い、さらにMOA関連の他団体による6件の発表についてもサポートを行った。特に、日本統合医療学会に関して、当財団の職員が組織委員として運営に協力し、鈴木理事長と片村常務理事がシンポジウムで講演をされ、医療モデルと社会モデルの認定施設である東京療院の価値を説明していただいた。また、富嶋客員研究員による「岡田式浄化療法の体験型ワークショップ」には多くの医療関係者が参加し、浄化療法の資格講座を受講する事例も見られた。

(3) 研究を推進するために必要な仕組みの充実

① 研究推進委員会・小委員会の充実

内部研究小委員会を5回開催し、今後の研究のあり方と方向性の検討を進めた。具体的には、症例作成（石川県、東京都、佐賀県、北海道等）、臨床研究（東京療院、名古屋療院等）、統合医療の医療モデルと社会モデルなどの検討を行った。また、ヴィッテンヘルデッケ大学の的場教授の研究計画、農環健研の中川研究員の研究計画、森本医師の論文についての情報交換なども実施した。

② 倫理審査委員会と利益相反の管理に基づく研究の充実

1) 倫理審査の実施

倫理審査委員会では、「人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理審査に関する規程」に基づき、3件の倫理審査申請に対して、新規の迅速審査1件、計画変更の回覧審査2件の審査を実施した。（迅速審査の1件を以下に示す。）

申請者：佐藤 智広（東京療院）

研究課題：「シセイカルテ（AIによる姿勢・動作分析）を用いたセルフケア促進の取り組みについての予備的検討」（迅速） （修正した上で承認）

また、利益相反管理委員会では、役員や研究責任者のCOI管理を適宜実施した。

(4) 統合医療に関する情報収集および人的交流、人材の育成

① 学会・シンポジウム等への参加

ヴィッテンヘルデッケ大学（ドイツ）で実施された第一回 International Scientific Conference on Mind-Body Medicine (ISC-MBM)へオンラインで参加を行い、心身療法がストレスマネジメントの方法として広く浸透してきていることを見聞した。またその他の統合医療に関わるシンポジウムや研究会へ参加した。

② 人的交流および人材の育成

国会議員や地方議員ならびに医療関係者や有識者との交流を図った。

(5) 当財団の社会化に向けた研究機関あるいは各団体等との連携

① タイ国の行政機関各種団体との連携

タイ国衛生省・文部省学習支援局との協定を締結し、研究に向けた連携を行った。

② いのちの研究会・信仰をもつ医療者の連帯のための会開催に伴う運営の協力を行った。

③ 各種学会との連携と支援

鈴木清志理事長（日本統合医療学会代表理事補佐理事・国際委員会委員長）、内田誠也理事（日本生理心理学会評議員）、木村友昭主任研究員（日本応用心理学会理事）、は各人が所属する学会において役職を担い貢献してきた。

3. 普及、広報活動の充実と拡大

MOA インターナショナルと協働しながら岡田式健康法の研究成果を分かりやすく社会に紹介する資料や情報の発信を行った。また健康づくり啓発のために健康チェックの充実に努めた。

(1) 「これからの医療とまちづくりシンポジウム」の地方開催支援（詳細は付録④ p. 5 参照）

これからの医療とまちづくりシンポジウム（奈良県開催）、「美味しいまちづくり」シンポジウム in ちば、これからの医療とまちづくりシンポジウム in 新潟の開催の協力を行った。

(2) 社会に知らせる取り組みと資料の充実

① 会員誌と資料（冊子、DVD等）による情報提供

1) 研究報告集の活用と外部団体・機関・図書館等への登録（送付）を行った。

2) 会員誌「21 世紀の健康科学」65 号の発刊

「AI とスピリチュアリティが切り拓く新たな医療」というテーマのもと、酒谷薫氏（東京大学特任研究員）、鈴木理事長、片村常務理事、木村主任研究員による座談会をまとめた記事を掲載し、賛助会員および関係団体に情報提供を行った。

3) 会員向けの資料（ニュースレター「すこやかだより」）の発行年 2 回

能登半島地震の支援活動を紹介した『ニュースレターNo. 6』および、東京療院におけるフラワーセラピーの事例を紹介した『ニュースレターNo. 7』を発行した。

4) MOA 発行の情報誌との連携

鈴木清志理事長が、MOA ニュースレターにおいて「岡田式健康法を科学する」と題した連載を 4 回にわたり執筆し、また研究報告集第 28 巻の紹介記事も掲載された。

5) 資料（冊子、DVD等）の作成と活用

各種テーマで研究員が行ったセミナーの DVD を 6 枚頒布。また、浄化療法に関する研究内容を紹介したパネルを 1 枚頒布した。

② インターネット配信の充実

1) ホームページの更新と充実

本財団の事業・活動、健康チェックに関する情報、研究成果などについて定期的に更新を行い、普及・広報活動に活用した。ホームページを見て健康チェックに訪れる事例も複数あった。

2) YouTube および SNS の更新と充実

YouTube では研究者による講演・セミナー動画を新たに 2 件公開（累計 17 件）。年間チャンネル登録者数は 45 名増加し（累計 703 名）、総視聴回数は 1,105 回に達した。岡田式健康法の有効性を広く発信することができた。

また、LINE 公式アカウントによる健康チェックの広報活動も展開し、登録者数は 584 名で、健康チェックのスケジュール案内やポイント付与等のサービスも提供した。

3) 研究報告集の電子ジャーナルによる発信

研究報告集第28巻を本財団ホームページ上で電子ジャーナルとして公開した。

(3) 講演会、研究会、セミナー健康度測定の実施

① 教育機関等での実施

1) 神奈川歯科大学大学院

令和4年度より継続して、東京療院の協力医師であり当該大学院の統合医療学講座の蒲原聖可教授からの依頼で、食事療法概論の講義を担った。

講義ではMOAグループの取り組みとして自然・有機農産物を取り入れた統合医療の取り組みを全国展開していること、自然農法や有機農法は地球環境への負荷や化学農薬による健康への悪影響を減らし、腸内環境の改善にもつながることを紹介した。

2) 公益財団法人農業・環境・健康研究所が主催した「令和6年度研究成績および計画検討会」に参加し、各研究員の研究課題について報告と意見交換が行われた。

② 各MOAチーム（健康生活ネットワーク）と連携したセミナーと健康度測定の実施

セミナーは年間14回実施し、約2,800名を対象とした。健康チェックは114回実施し、約1,700名が参加、寄付金として約53万円をいただいた。（詳細は別紙付録⑤-1 p. 6、⑤-2 p. 7を参照）

1) 東京療院内における実施

週2回の健康チェックの実施に加え、グリーンマーケットとのコラボ企画、東京療院内で行われる健康生活ネットワーク関係者の研修、タイをはじめとした海外からの来訪者への対応として、健康チェックやセミナーを実施した。年間の実施回数は97回、参加者は947名にのぼり、寄付金として373,350円をいただいた。一般参加者の割合が約18%に増加しており、健康法体験の案内、当財団の賛助会員への入会に繋がった。

2) 各地域での実施

セミナーは札幌市をはじめとする6か所で開催し、約800名が聴講した。健康チェックは7か所で実施され、386名が体験した。特に市川市市民まつりでは、一般参加者が岡田式浄化療法の前後で肩の筋硬度を計測し、効果を実感。これをきっかけに健康セミナーへ参加される方もいた。

3) 箱根町・瑞泉郷などでの実施

8月に箱根で行われた行事において、利見事務局長が当財団の活動を紹介。健康チェックは9回実施し、352名が体験した。これにより、賛助会員に対する健康意識の向上に貢献することができた。

4) 法人会員に対するセミナーや健康度計測の実施

法人会員であるエスティメート株式会社の企画行事において、一般参加者を対象としたセミナーおよび健康チェックを実施した。

4. 事業基盤の充実と拡大

(1) 賛助会員

賛助会員登録数は、団体会員 20 団体、個人会員 1,559 名（令和 7 年 3 月末現在）である。本年も「21 世紀の健康科学」「すこやか便り」の作成（ニュースレター）やチラシの配布、研究報告集第 27 巻の進呈案内等を通して事業内容の広報に努め、賛助会員入会の案内を進めた。こうした取り組みの中から新規に個人会員 37 名の入会者を得ることができた。

(2) 寄付金収入

東京療院において定期的に行っている健康チェックをはじめ DVD の頒布、ホームページ等を通して研究成果を広く伝え、統合医療の有効性を訴えていくことにより、財団運営・活動へのご支援をお願いしてきた。本年度は、賛助会員や関係者及び各団体をはじめ一般の方々から、年間で約 67 万円の真心こもる寄付金をいただくことができた。

以 上

付録① 調査研究一覧

研究 カテ ゴリ	研究タイトル	主担 当者	共同研究者 (当財団関係 者のみ)	共同研究機関	①進捗 状況	②データ 収集状況	研究報告	主たる結果	研究課題
1. 統合医 療の研 究(医 療モデ ル)	①症例を収集する仕組みの開発	内田 誠也		東京病院	実施中	収集中		2例の改善事例のデータを収集できた。	課題として、以前のデータ に書き足すことができない ので、仕組みを検討すべきで ある。
	②岡田式健康法のライフスタイルと心と 体のストレスとの関連について	内田 誠也		東京病院、 奥熱海病院、 名古屋病院	完了	収集中	学会発表の実施、 論文作成中 (分析中)	岡田式健康法とストレス対処能力に関連がみら れた。心と体のストレスとライフスタイル のストレスの関連システムを作成した。	岡田式健康法による介入研 究やフォローアップ調査を 行うことが必要である。
	③岡田式浄化療法をはじめ各種健康法の 生理心理学的な効果について	内田 誠也		東京病院	完了	収集終了	論文発表の実施	岡田式浄化療法やマッサージ、ヨーガには通し の効果があり、通し度の変化と肩の可動域の変 化に関連がみられた。	岡田式浄化療法の研究デザ インに課題が見つかった。
	④AIを用いた血液検査データによる認知 症リスク評価と予防に関する研究	片村 宏	鈴木満志、 柴健彦、 木村友昭	脳と心の健康科学研究所、 エム・オー・エー高輪クリニッ ク、エム・オー・エー新高輪クリニッ ク	実施中	収集中		2024年7月からデータ収集を開始した。現在約60 人のデータが収集され、認知症リスク判定を実 施した。	多くの研究参加者は、MOA 健康の健診結果を使用して いるが、欠損データが発生 する。
	⑤乳がん患者の症例作成	三宅 真矢	柴健彦、 木村友昭、 田中英明	金沢病院	完了	収集終了	論文作成中 (分析中)	金沢病院では、2回の乳がん治療を繰り返した 患者の一事例について、患者自身の趣味づけと ケアのあり方の方眼点で論文を作成中である。	2年間にわたり、論文作成を 支援してきた。内部研究小 委員会での検討を経て、さ らに修正作業を行っている。
	⑥岡田式健康法が生活習慣病患者の動脈 硬化に及ぼす影響	児玉 啓介 大村 重信	木村友昭	児玉医院、広島病院	完了	収集終了	論文作成中 (分析中)	岡田式健康法を取り入れた統合医療的アプロ ーチが生活習慣病患者の疾患の改善と動脈硬化に 及ぼす影響を明らかにした。	研究成果を2つの論文にま とめることになった。現 在、一つは出版済みで、も う一つは作成中である。
	⑦半没入型VRの産し効果	柴 健彦	木村友昭	MOA名古屋クリニク	完了	収集終了	論文発表の実施	名古蘭クリニクの外来待合室における自然派 観の半没入型VRを用いた産し効果が明らかにな った。	映像を含む美術文化法につ いて、引き続き研究を計画 する予定。
	⑧各施設と連携した症例作成	中橋 通代	内田誠也	奥熱海病院	完了	収集終了	学会発表の実施	音楽療法を中心とした生活改善プログラムに よって自律神経機能の改善がみられた。	論文化が課題である。
	⑨過敏症に対する療養と分限の取り組み	池田 淳史	木村友昭、 利見晃二	札幌病院	実施中	収集中		20代女性のナルコレプシー(過眠症)患者につ いて、症例を作成中である。	学会発表を行うかどうか、 検討中である。
	⑩がん患者の症例作成支援	伊藤 宗晴	利見晃二 木村友昭	南九州病院	実施中	準備中			
2. 統合医 療の研 究(社 会モデ ル)	⑪シセイカルテ(AI)による姿勢・動作分 析を用いたセルフケア促進の取り組み についての予備的検討	佐藤 智広	田中英明、 片村宏	MOAインターナショナル、 MOA新高輪クリニク、 MOA健康科学センター	完了	収集終了	学会発表の実施	岡田式健康法を含む統合医療的介入で姿勢が改 善し、セルフケアの意欲が高まった。	シセイカルテの妥当性と信 頼性の検証、長期における 有効性の検証。
	⑫社会モデルとしてのMOA健康生活ネッ トワークに関する調査研究	丹治 博子	片村宏、 有馬佐和子、 木村友昭	東京病院	実施中	収集終了	学会発表の実施、 論文作成中 (分析中)	ネットワーク研修は、ボランティア育成と関係 性の質的向上を促進し、地域共生社会構築につ ながる機会となったと考える。	ネットワーク・ステーショ ンの役割・機能について、 さらに研究を進めたいと考 える。
	⑬リモートサポートミーティングの取り 組みについての研究 (東京病院への支援)	校 討 中							
	⑭相談シートを活用した地域コミュニ ティとの連携の取り組みについての研究 (東京病院への支援)	校 討 中							

研究 カテ ゴリ	研究タイトル	主担 当者	共同研究者 (当財団関係 者のみ)	共同研究機関	①進捗 状況	②データ 収集状況	研究報告について	主たる結果	研究課題
3. 農医連 携の研 究	①食生活の異なるヒトの腸内細菌叢の多様性（農医連研との共同研究） ②栽培管理の異なるニンジンジンの摂取がヒトの腸内細菌叢に与える影響の調査（農医連研との共同研究）	加藤孝太郎		光輪会鹿児島クリニック、 社会医療法人聖医会サザン・リー ジョン病院、社会福祉法人青島 会、株式会社サツマガグリーン ティー、 MOAインターナショナル 光輪会鹿児島クリニック、 社会医療法人聖医会サザン・リー ジョン病院、社会福祉法人青島 会、株式会社サツマガグリーン ティー、 MOAインターナショナル	実施中	分析中	岡田式健康法研究会、学術講演会、市民セミナー	有機・自然あるいは慣行の農産物を常食する被験者の腸内細菌叢を比較したが、処理間差より個人差が大きい。	解析精度の向上には被験者数の増加が必要である。
	③自然農法にて育成された新品種米の摂取が成人のアトピー性皮膚炎と腸内細菌叢に及ぼす影響（農医連研との共同研究） ④有機栽培の技術指導付き市民農園が利用者の主観的な健康に及ぼす影響の調査（農医連研との共同研究）	田刈浩康 中川祥治	加藤孝太郎、 木村友昭 田中英明	玉川会エムオーエー名古屋クリニック、医療法人社団慈生会梅園ヘルスケアクリニック 公益財団法人農業・環境・健康研究所；静岡県立大学 日本大学	実施中	収集中	まだ報告できていない。 まだ報告できる段階にない。	栽培法の異なるニンジンジンを摂取したヒトの腸内細菌叢を比較した。個人差はあるが特徴的な変化も検出した。	解析精度の向上には被験者数の増加が必要だが、視覚および採取試験は終了している。
4. スベリ チュア ルなケ ルに関 する研 究	①PTGと岡田式健康法・信仰とスピリチュアリティに関する研究	田中英明	木村友昭	日本大学	実施中	収集終了、 論文作成 中	学会発表の実施、 論文作成中（分析 中）	研究参加者は、2023年度が2名、2024年度が5名、2025年度が10名得られている。	有機農法に特化した市民農園の利用に伴うWell-being、QOLおよびSOCの変化を観察する。
5. 共生社 会の研 究	①障害児の保護者における支援サービスの満足度と療育効果 ②介護福祉共生型サービスの満足度及び実施に関する調査研究	木村友昭 木村友昭		コスモケア・エナジー、広島大学、長崎県立大学、日本大学 コスモケア・エナジー、 広島大学、日本大学	完了 実施中	収集終了 収集終了	学会発表の実施、 論文作成中（分析 中） 学会発表の実施、 論文作成中（分析 中）	横断研究のため因果関係は不明、質的研究を通して探索が必要。	今後の研究課題として、利用者のフォローアップ調査や、疾患を絞った質的な研究が必要である。
6. 統合医 療の効 果を評 価する ための 研究	①お花を利用した心理療法の評価法に関する研究	内田誠也		東京慈恵院	実施中	分析中	学会発表の実施	被験者の心状態や親子関係は花の位置情報や印象評価と関連する可能性が示唆された。	親子関係が良くなると花の位置が離れていく事例と、逆に短くなる事例があり、心理的な考察を検討することが課題である。

付録② 研究報告集論文一覧

no	論文の種類	タイトル	著者	内容
1	原著	日芸版「癒し」評価スケールを用いた相補代替医療の癒しの評価およびその癒し度と方の筋硬度との関連について	内田誠也、 田中英明、 片村宏、 高場政美、 深澤大輔、 片瀬愛	癒しとは肉体の疲れ、精神の悩み、苦しみを何かに頼って解消したりやわらげたりすることを意味するようになってきています。この癒しを評価する調査票を松本日本大学名誉教授が開発されました。この調査票を用いて、東京療院で行われている相補代替医療（岡田式浄化療法とマッサージ、ヨーガ）の癒し度を研究しました。それらの相補代替医療にはこころを癒す効果があり、癒され度が高いと肩の硬さが柔らかくなることをまとめた内容となっています。
2	総説	岡田式健康法と日本の統合医療	鈴木清志、 片村宏、 中島宏平、 田中英明、 橋本聖子	昨年3月下旬英文雑誌Alternative Complementary & Integrative Medicineにおいて、統合医療における岡田式健康法の意義についてまとめた総説論文が出版された。日本における統合医療には日本独自の過程があり、大きな特徴の一つとして統合医療の実践としてその定義に社会モデルと医療モデルが存在している。それらを踏まえた上で、岡田式健康法とそれを提供する東京療院の意義について紹介した英文論文の日本語版である。
3	研究報告	都市型クリニックの外来待合室における自然景観の半没入型VRを用いた癒しについて	柴維彦、 木村友昭	本研究は、機会嫌いで「VR」嫌いの著者である私が「VR」をクリニックに自ら設置し研究したものです。一定以上の年齢の方にはそもそも「VR」ってあまり聞きなれない言葉かもしれませんね。私もそうでした。しかし、40代前後より若い世代では当たり前の言葉であることが研究を通して実感され、いささかジェネレーションギャップを感じ、私ももう若者ではないのだなという現実に打ちのめされました。「VR」ってなんだよと思われた方は、是非ご一読ください。
4	資料	岡田式健康法を取り入れた統合医療的アプローチが生活習慣病患者の動脈硬化に及ぼす影響	児玉啓介、 木村重信、 新谷拓也、 木村友昭	島根県の児玉医院において、岡田式浄化療法をはじめとする健康法の効果について調査研究を実施しました。21人の生活習慣病患者を対象に、広島療院が作成したサポートプランに基づき、1年間取り組みました。その結果、動脈硬化や血液検査データに有意な改善が見られました。また、一部の患者さんは、岡田式健康法とお薬を併用されていましたが、MOAのスタッフや療法士の皆さんが患者さんに寄り添うことで、生活習慣改善の意欲を支えることができました。
5	資料	腸内細菌叢解析のための糞便サンプルからのDNA抽出法の比較	加藤孝太郎、 宮島一将、 戸内愛希子、 大坪誠治、 園田純子、 園田俊郎、 牧美輝	ヒトの腸内には数百から1000以上の種類におよぶ細菌が生息しており、それらの細菌によって産出された代謝産物は、ヒトの健康に影響を及ぼすことがわかってきました。腸内細菌の調査には細菌由来のDNAを利用しますが、そのDNAを効率的に回収する手法として、2種類の市販キットと1種類の独自手法を比較しました。その結果、細菌DNAの量と質は、1つの市販キットと独自手法は同程度でしたが、別の市販キットは充分でないことがわかりました。
6	レター	「生体エネルギー療法：臨床試験の報告におけるガイドライン」の出版について	田中英明	生体エネルギー療法の臨床試験の報告を行う際のガイドラインが出版されたことについて報告をおこないました。
7	転載	有機食品摂取に伴う主観的な健康の変化とその要因分析	中川祥治、 園田明人	本研究では、日常的に有機食品を摂取する消費者の健康状態の変化とその要因を調査しました。変化を感じた人は、より多様で頻繁に有機食品を摂取し、健康への関心も高い傾向がありました。

付録③ 学会発表一覧

No.	学会名	形式	発表者	共同発表者（当財 団関係者のみ）	タイトル
国際学会発表					
1	International Conference on Traditional and Alternative Medicine	基調講演	鈴木理事長		The specific development of integrative medicine in Japan and MOA activities
国内学会発表					
2	第42回日本生理心 理学会	ポスター	内田主任研究員		重回帰分析を用いた首尾一貫感覚（SOC）に関連するライフス タイルについて
3	日本応用心理学会 第90回大会	ポスター	木村主任研究員		介護・福祉共生型サービスの満足度、およびその実態について ー 広島県の介護事業所における予備的調査 ー
4	日本応用心理学会 第90回大会	ポスター	田中研究員	木村主任研究員	大学生の心的外傷後成長に関連するライフスタイル因子につい て
5	日本応用心理学会 第90回大会	ポスター	内田主任研究員	田中研究員	花を用いた心理療法で作成された生け花画像の評価に関する検 討 第2報
6	第83回日本公衆衛 生学会総会	ポスター	木村主任研究員		障がい児の保護者における支援サービスの満足度と療育効果 通所型事業所における調査
7	第25回日本有機農 業学会	口頭発表	加藤研究員	牧顧問	有機農業および慣行農法の施肥管理で栽培されたニンジン圃場 における土壌細菌およびニンジン根部常在細菌群集の年次変化
8	第28回日本統合医 療学会学術大会	シンポジ ウム	鈴木理事長	片村常務理事	心身療法の研究の難しさとその意義
9	第28回日本統合医 療学会学術大会	シンポジ ウム	片村常務理事	鈴木理事長 中島理事	医療モデルと社会モデルの一体化による「共助モデル」につい て
10	第28回日本統合医 療学会学術大会	ワーク ショップ	富嶋客員研究員		岡田式浄化療法（生体エネルギー療法）の体験型ワークショッ プ
11	第28回日本統合医 療学会学術大会	ポスター	内田主任研究員	田中研究員 片村常務理事 深澤客員研究員	日芸「癒し」評価スケールを用いた相補代替医療の癒しの評価 およびその癒し度と肩の筋硬度との関連について
国内学会発表（サポート）					
12	第28回日本統合医 療学会学術大会	ポスター	神田康代	有馬理事 富嶋客員研究員 片村常務理事	統合医療施設における『ケアの振り返りメモ』を活用した看護 実践の報告
13	第28回日本統合医 療学会学術大会	ポスター	丹治博子	有馬理事 木村主任研究員 片村常務理事	地域共生社会「MOA健康生活ネットワーク研修」の意義 ー 統合医療施設と地域コミュニティ（MOA健康生活ネットワー ク）との連携の実践ー
14	第28回日本統合医 療学会学術大会	ポスター	佐藤智宏	田中研究員 片村常務理事 深澤客員研究員	シセイカルテ（AIによる姿勢・動作分析）を用いたセルフケア 促進の取り組みについての予備的検討
15	第28回日本統合医 療学会学術大会	ポスター	眞弓俊也	有馬理事 柴評議員 片村常務理事	地域共生社会における統合医療の医療モデルと連携した社会モ デルの取り組み～在宅での末期がん患者のケアを通して～
16	第28回日本統合医 療学会学術大会	ポスター	中川宏美	森岡研究推進委員	能登半島地震における炊き出し支援と併せて実施した統合医療 的ケア
17	日本音楽医療研究 会第18回学術集会	口頭発表	中橋通代	佐久間理事 富嶋客員研究員 内田主任研究員	喪失感を抱えた患者に対して音楽療法がリチャルな側面に影 響を与えた一症例

付録④ 「これからの医療とまちづくりシンポジウム」 地方開催の詳細

no	①	タイトル これからの医療とまちづくりシンポジウム 開催日時 令和6年4月28日（日）10:00～11:30 会場 奈良春日野国際フォーラム 薔IRAKA能楽堂 主催 MOAインターナショナル 共催 一般財団法人MOA健康科学センター 協賛 明るい社会をつくる会 大阪、兵庫、京都、志賀、奈良、和歌山支部 内容 第一部 フォーラム 標題：「生活習慣病に対する岡田式健康法を中心とした、統合医療・全人的ケアによるQOLの向上」 第二部 基調講演 講演者：伊藤壽記（日本統合医療学会理事長） 標題：「キュア（Cure）からケア（Care）へ～人類の進化から見た光と影～」
	②	タイトル 第4回 「美味しいまちづくり」シンポジウムinちば 開催日時 令和6年8月24日（土）13:00～15:30 会場 蘇我コミュニティセンター4F 多目的ホール 共催 美味しいまちづくりシンポジウムinちば実行委員会、MOA食育ネットワーク千葉、一般社団法人MOA自然農法文化事業団千葉連合会 協力 明るい社会をつくる会千葉県支部 後援 農林水産省、千葉県、千葉市、習志野市、市川市、船橋市、佐倉市、四街道市、成田市、八街市、大網白里市、いすみ市、市原市、木更津市、君津市、白井市、鎌ヶ谷市、柏市、富里市、神埼町、東庄町、千葉日报社、一般財団法人MOA健康科学センター 内容 第一部 基調講演 講師：岡崎 朋美（元アスリート） 標題：「食を通して健康づくり」 第二部 パネルディスカッション 高野 典子（千葉市花見川区自然食愛好者）井川 信一（自然農法実施者） 石崎 ちえみ（みなみわくわく町づくりプロジェクト代表） コーディネーター： 加藤 孝太郎（MOA健康科学センター） 標題：「美味しいを拡大する」 参加者 200名（運営スタッフ38名含む）、来賓・祝電紹介15名
no	③	タイトル 「これからの医療とまちづくり」シンポジウムin新潟 開催日時 令和6年11月10日（日） 会場 メディアシップ日報ホール、みなとひろば 主催 （一財）MOA健康科学センター、（一社）MOAインターナショナル、MOA自然農法新潟県普及会連合会 後援 新潟県、新潟市、佐渡市、佐渡汽船株式会社、新潟日报社、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、新潟市傾聴ボランティアこころ 協賛 新潟オーガニック連絡協議会 （農）夢の谷ファーム 内容 第一部 基調講演：鈴木清志（（一財）MOA健康科学センター理事長） 標題：「予防・健康増進のための日常的なケア」 第二部 パネルディスカッション 「エネルギー療法の効果と拡がり」 平茂一郎、青柳典夫 「花から始まる癒しと生活のうるおい」 鈴木和子、清水ハル子 「自然米新品種の取り組み」 関勉 アドバイザー：鈴木清志（MOA健康科学センター）、内田誠也（MOA健康科学センター） コーディネーター：山崎理（十日町・上越保健所長） 来賓者数 36名 来場者数 220名、リモート会場：3会場（50名）、Youtube視聴：106名（11/10現在）

付録⑤-1 セミナー一覧

No.	日付	場所	名称	講演者	人数
1) 東京療院における受入					
1	7/19	リブ高輪	GM夏野菜祭りコラボ企画	内田主任研究員	5
2	7/20	リブ高輪	GM夏野菜祭りコラボ企画	加藤研究員	10
3	8/10	東京療院	タイ文部省学習支援局運営者クラス	内田主任研究員	8
4	8/30	東京療院	タイ文部省学習支援局実務者クラス	内田主任研究員	7
5	10/31	東京療院	チリ受入れ	内田主任研究員	22
6	3/28	東京療院	タイ国有識者受入	鈴木理事長 内田主任研究員	9
2) 各地域での実施					
1	5/8	札幌療院	健康セミナー	内田主任研究員	100
2	7/27	伊豆市	伊豆市から依頼	加藤研究員	35
3	8/24	蘇我市コミュニティセンター	第4回「美味しいまちづくりシンポジウム in ちば」	加藤研究員	200
4	10/10	新潟日報メディアシップ	これからの医療とまちづくりシンポジウム in 新潟	鈴木理事長 内田主任研究員	400
5	11/17	南城市役所	南城市まつり	内田主任研究員	10
6	11/24	全日警ホール	健康セミナー	内田主任研究員	28
3) 箱根町・瑞泉郷などでの実施					
1	8/1	ビデオ	箱根光輪祭	利見事務局長	2000
4) 法人会員に対するセミナーや健康度計測の実施					
1	5/9	小樽市	エステイメイト	内田主任研究員	44
				合計	2878

付録⑤-2 セミナー一覧

No	日付	場所	名称	回数	人数	寄付金
1) 東京療院における受入						
1	2024/4~2025/3	東京療院	健康チェック	97	947	373350
2		東京療院	ネットワーク受入	20	147	※上記の人数・寄付金に含む
3		東京療院	海外受入	6	77	※上記の人数・寄付金に含む
2) 各地域での実施						
1	4/11	名古屋療院	スプリングマルシェ	1	26	15200
2	5/8	札幌療院	健康セミナー	1	96	
3	10/12	名古屋療院	マルシェ	1	16	9800
4	10/27	本庄市	本庄市観光農業セ	1	101	
5	11/2	市川市	市川市民まつり	1	54	7000
6	11/17	南城市	南城市まつり	1	80	
7	11/24	市川市	健康セミナー	1	13	20000
			小計	7	386	52000
3) 箱根町・瑞泉郷などでの実施						
1	2024/4~2024/12	箱根神仙郷	健康チェック	8	298	91600
2	11/16	大仁瑞泉郷	大仁瑞泉郷フェス	1	54	10300
			小計	9	352	101900
4) 法人会員に対するセミナーや健康度計測の実施						
1	5/9	小樽市	エスティメイト	1	37	
			合計	114	1722	527250